

事務事業評価における総括

部 局 名	企画部	記入責任者	添田 信三
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>企画部 6 課では、政策的な事業において、30 事業に取り組みました。結果、S 評価が 13 事業、A 評価が 4 事業、C 評価が 4 事業、E 評価が 1 事業、Z 評価が 1 事業、実績なしが 7 事業という結果になりました。</p> <p>企画部の事業は、庁内及び庁外の関係機関等の調整を図りながら進めていく事業が多いという特徴があります。外的な要因に左右されるという事業性質はあるものの、実施成果として 17 事業で成果があがっており、また 4 事業は今後成果が見込めるものとしています。社会の変化に対応できる行政計画の達成に向けて、着実に取り組みを進めているものと考えます。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>E 評価とした中核市移行推進事業は、中核市移行に向けた財源確保等に関する要望活動回数を指標としており、未だ移行に向けた課題が多く、課題の整理等に時間を要していることなどが評価に影響しています。</p> <p>また、C 評価とした多世代共生・交流推進事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数を 1 回中止したことが評価に影響しています。また、セカンドライフのプラットフォーム（高齢期における社会参加の仕組みづくり）は、指標を社会参加のマッチング数としており、窓口訪問者の減少によりマッチング数が減少していますが、マッチング率からみると約 10%増加しているため、C 評価としました。</p> <p>同じく C 評価とした（仮称）河童徳利ひろば整備事業や、県立茅ヶ崎里山公園外周道路整備事業等については、事業の進捗状況を指標にしているため、関係機関調整等に時間を要していることなどが評価に影響しています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>令和元年度に取り組んだ事業は、成果があがった及び成果が見込める事業は 21 事業（70%）でした。これらの事業は、今後さらなる成果・効果を見込むため、事業実施に関する様々な見直しを検討しながら、継続した取り組みを進めていきます。併せて、各課が、施策のねらいや事業目的を改めて振り返り、積極的に事業の効率的・効果的な手法を検討していきます。</p> <p>今後も必要な新型コロナウイルス感染症のまん延防止対策や経済対策を進めるため、既存の枠組みに捉われることなく、全庁的な事務事業の整理や業務の効率化を推進します。</p> <p>また、日本全体がポストコロナ時代を目指して進みだしている中、企画部としても「新たな日常」を構築する原動力となるデジタル化の推進や新たな働き方の構築に向け取り組んでいきます。</p>			